

(2) 授業デザインと「見方・考え方」
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める際には、子ども

に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする議論が展開され、各教科等において育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づき整理されるとともに、「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」とされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なりとされる。さらに、「見方・考え方」は「教科等の教育と社会をつなぐ」、言い換えれば、子どもたちが大人になって生活していく際にも重要な働きをするものでもある。

「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

Ⅱ 「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

(1) 学習指導要領の各教科等の目標と「見方・考え方」
まず、学習指導要領の教科等の目標に「見方・考え方」を働かせることが含まれている(※1)ことを確認する必要があります。
そして、各教科等の学習指導要領の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」1 (1)において、「見方・考え方」を働かせる授業を実現するための学習活動の工夫について記載されている(※2)。「子どもたちが学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせられるよう」にすることにこそ、教員の専門性が発揮されること求められる」とされ、「深い学び」の視点から授業改善をし、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

【参考】
小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 総則編
初等教育資料2017年11月号
初等教育資料2019年9月号

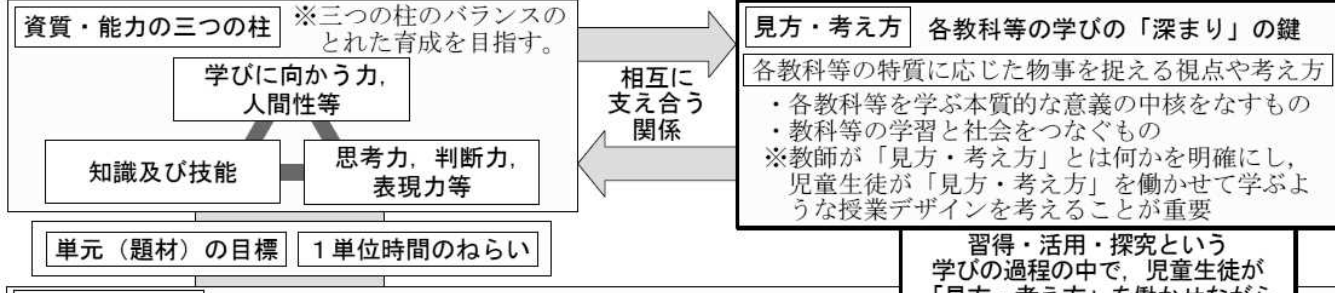
(3) 学習評価と「見方・考え方」
観点別学習状況の評価の対象はあくまでも各教科等で育成を目指す資質・能力をどの程度身に付けているかどうかであり、「見方・考え方」を働かせているかどうかを自らを評価の対象とするものではない。しかし、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中で子どもの学びを振り返り、授業改善を行う中で、子どもたちが「見方・考え方」を働かせることができているかを確認し、教師の更なる指導の改善等につなげることは重要である。

※1、※2、※3……資料2参照(各教科のみ作成)

「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

単元(題材)及び授業構想のポイント
資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

各教科等において目指す資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図ることが大切です。特に、「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」であり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。



授業改善の視点 ※○は視点の主な具体

主体的な学び ○学ぶことに興味や関心をもつ ○自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる	対話的な学び ○自分の考えをもった上で話し合う ○他者との協働や対話、先哲の考えに触れることにより、自己の考えを広げ深める	深い学び ○知識を相互に関連付けてより深く理解していく ○情報を精査して考えを形成していく ○問題を見いだして解決策を考えていく ○思いや考えを基に創造していく
---	--	---

【留意事項】・児童生徒の学びの姿から三つの視点の実現状況を把握し、一体として改善・充実に図られるようにする。
・一人一人の児童生徒や学校の実態を的確に把握し、授業を組み立てる。
・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

授業改善と評価
・学習評価により、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かすことが大切です。
・児童生徒が「見方・考え方」を働かせているかどうか自体は評価の対象とするものではありません。しかし、授業の中での児童生徒の学びを振り返り、授業改善を行う中で、児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができているかを確認し、更なる指導の改善等につなげることは重要です。

理科 内容のまとまりごとの評価規準作成のポイント

評価規準は、学習指導要領に示す目標の実現状況を判断するよりどころを表現したものです。評価規準を作成することで、問題解決のそれぞれの過程において、どのような資質・能力の育成を目指すかを明確にすることができます。作成に当たっては、取り上げる内容に照らし合わせて、次の六つの観点に基づき具体的な児童の姿を想定しておくことが大切です。

理科の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A 知識面 B 技能面	C 観察, 実験前の思考・判断・表現 D 観察, 実験後の思考・判断・表現	E 粘り強い取組を行おうとする側面及び自らの学習を調整しようとする側面 F 理科を学ぶことの意義や有用性の認識という側面

小学校第3学年 「太陽と地面の様子」の単元の評価規準例(一部)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日陰は太陽の光を遮るとで、日陰の位置は太陽の位置の変化によって変わること理解している。A ※上記は内容(2)ア(ア)を基に作成。ア(イ)は省略。 ・太陽と地面の様子について、器具や機器など調べるべく、それらの過程や得られた結果を記録して記録している。B	・太陽と地面の様子について、差異点や共通点を基に、問題を見いだし、表現するなどして問題解決している。C ・太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。D	・太陽と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしている。E ・太陽と地面の様子について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。F

Dの評価規準を基に評価する具体例

<本時のねらい> (7/11時間)
観察の結果から日なたと日陰の地面の暖かさについて考察し、違いについてまとめている。

思考・判断・表現【記述分析】
日なたと日陰の地面の暖かさにはどのような違いがあるかについて、観察の結果を基に考察し、表現している。

観察の結果		
	午前10時	正午
日なた	19℃	26℃
日かげ	14℃	16℃

(考) 時間がたつと太陽の光が当たって日なたの地面の温度は高くなるが、日かげの温度はあまり変わらないことがわかった。

時間的な見方や日なたと日陰の地面の温度を比較して考えている子どもの記述から、理科の見方・考え方を働かせて問題解決している状況と評価することができます。

point 知識については、解説の各内容のA(ア)～(エ)を基に作成します。技能は、器具や機器の操作と、結果の記録に関する内容を記述します。

point 思考・判断・表現については、学年で主に育成を目指す問題解決の力に配慮して作成します。

point 主体的に学習に取り組む態度に他者や問題とどう関わって問題解決しようとしているか、学習や生活に生かそうとしているかを記述します。

資質・能力を育成する「見方・考え方」を働かせることを通して

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。

この「見方・考え方」とは何なのか、「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の表現に向けてどのようなことに配慮すればよいのだろうか。

Ⅰ 「見方・考え方」とは何か

(1) 「見方・考え方」の定義
学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るための視点や考え方が、「見方・考え方」である。従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

(2) 「深い学び」と「見方・考え方」
今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点からは「深い学び」の視点は極めて重要であるとされてきた。「深まり」を欠くと表面的な活動に陥ってしまうという指摘もあつたからである。

また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の在り方は各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるという見解が示された。

(3) 「見方・考え方」と資質・能力の三つの柱の関係
学習指導要領において「見方・考え方」は、育成を目指す資質・能力の三つの柱とは別の概念として整理されている。「見方・考え方」は「深い学び」の鍵になるものとされているが、これは「見方・考え方」を働かせることにより資質・能力が育まれるということである。すなわち、各教科等の学びを通じて子どもたちが資質・能力を獲得する過程で、子どもたちが「働かせる」ものである。また、「見方・考え方」を働かせることで資質・能力が更にも育まれたり、新たな資質・能力が育まれたりする。またそれによって「見方・考え方」が更に豊かになるというように、「見方・考え方」と資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

(4) 「見方・考え方」と当該教科等を学ぶ意義
今回の改訂においては、なぜそれを学ぶのか、それを通じてどのような力が身